

No.3 JP7-231886A
(書誌+要約+請求の範囲) (JIKOKEIHATSU TRAINING CENTER (covr.) 引用例 3)

(19)【発行国】日本国特許庁(JP)
(12)【公報種別】公開特許公報(A)
(11)【公開番号】特開平7-231886
(43)【公開日】平成7年(1995)9月5日
(54)【発明の名称】エゴグラムの分析方法
(51)【国際特許分類第6版】

A61B 5/16 8825-4C
G09B 19/00 G

【審査請求】有
【請求項の数】3
【出願形態】OL
【全頁数】7
(21)【出願番号】特願平6-24236
(22)【出願日】平成6年(1994)2月22日
(71)【出願人】
【識別番号】594032861
【氏名又は名称】株式会社自己啓発トレーニングセンター
【住所又は居所】東京都中野区中野2丁目12番15号
(72)【発明者】
【氏名】多田 徹佑
【住所又は居所】東京都中野区中野2丁目12番15号 株式会社自己啓発トレーニングセンター内
(74)【代理人】
【弁理士】
【氏名又は名称】渡辺 一豊

(57)【要約】

【目的】エゴグラムによる人柄の判断を正確にかつ明瞭に達成することを技術的課題とし、もって正確で高い信頼性のあるエゴグラムによる人柄の判断を得ることにある。
【構成】得られたエゴグラムに対して、エネルギーレベル判断処理、基本的パターン判断処理、突出要素の突出程度判断処理、反抗の子供的度合いの影響判断処理、そして成人的度合いの影響判断処理を行うことにより、エゴグラムの分析を心的エネルギーレベルを踏まえて、各要素の心的エネルギーの相互関係、各要素間の影響関係とその程度を定量的に把握し、もって正確で明瞭で高い信頼性のある分析結果を得る。

【特許請求の範囲】

【請求項1】批判的な親的度合い(CP)、保護的な親的度合い(NP)、自然な子供적度合い(FC)、順応な子供적度合い(AC)、反抗の子供적度合い(RC)そして成人的度合い(A)の六つの人柄の各要素に対する多数の設問を設け、該設問に対する被験者の認識度合いに応じた自己評価ポイントを得、該自己評価ポイントの各要素別の合算値から得られたエゴグラムに対して、○順応な子供적度合い(AC)を除いた各要素の合算値の合計の平均値 $(E)E = (cp + np + fc + rc + a) / 5$ による心的エネルギーレベル判断処理(1)、○批判的な親的度合い(CP)の合算値(cp)と保護的な親的度合い(NP)の合算値(np)との和の平均値と、自然な子供적度合い(FC)の合算値(fc)と順応な子供적度合い(AC)の合算値(ac)との和の平均値との差 $(k_1)k_1 = (cp + np) / 2 - (fc + ac) / 2$ による親的度合いと子供적度合いとの間の心的エネルギーの偏り傾向の判断作業(2₁)と、合算値(cp)と(np)との差 $(k_2)k_2 = cp - np$ および合算値(fc)と(ac)との差 $(k_3)k_3 = fc - ac$ に

よる親的度合い内および子供の度合い内における心的エネルギーの偏り傾向の判断作業(2₂)と、による基本パターン判断処理(2)、○最も合算値の大きい要素の、2番目の要素の合算値との差(t)による突出程度判断処理(3)、○合算値(rc)と、差(k_1)、差(k_3)、そして合算値(ac)との差のそれぞれの比較による反抗の子供的度合い(RC)の影響判断処理(4)、○合算値(a)の他の合算値に対する大小関係の比較による成人的度合い(A)の影響判断処理(5)、の各処理を行うエゴグラム分析方法。

【請求項2】 心的エネルギーレベル(EI)、差(k_1)、差(k_2)、差(k_3)、合算値(ac)と(rc)との差、差(t)のそれぞれを、予め統計的に求めた範囲の3～7に分割されたどの段階に位置しているかにより、その程度を判断する請求項1に記載のエゴグラムの分析方法。

【請求項3】 予め統計的に求めた範囲を5段階に分割した請求項2に記載のエゴグラムの分析方法。

詳細な説明

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、トランザクショナル・アナリシス(交流分析)と言われるフロイトの精神分析を土台としてつくられた、やさしく、判り易い心理学の理論によって現される被験者の人柄(パーソナリティ)を示すグラフであるエゴグラムを、簡単にかつ正確に分析する方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】エゴグラムによる人柄の判断の結果は、精神療法、性格の改善、仕事内容の向き・不向きの決定、スタッフの組合せの適・不適の判定等に極めて有効に活用されており、個人の円滑で良好な社会生活を得るため、および人材の適材適所を得るために役立っている。

【0003】このエゴグラムは、人柄を、チャイルドの自我状態である子供の度合いと、ペアレントの自我状態である親的度合いと、アダルトの自我状態である成人的度合いとの3つの要素から構成されていると考え、各要素における心的エネルギーの傾向(大小関係)から、その人の人柄を判断しようとするものである。

【0004】従来のエゴグラムは、人柄を構成する要素を、親的度合いを、批判的な親的度合いCPと、保護的な親的度合いNPとの二つに分け、同じく子供の度合いを、自然な子供の度合いFCと、順応な子供の度合いACとに分け、これに成人的度合いAを加えた五つとした。

【0005】そして、これら五つの要素別に、同数の多数の設問、例えば「人の目はあまり気にならない」(自然な子供の度合いFCに対する設問)を設け、この設問に対する被験者の認識度合いに応じた自己評価ポイント(例えば、全くそのとおり、の場合には3、だいたいそうである、の場合には2、時にはそうである、の場合には1、ほとんどない、の場合には0)を得、この自己評価ポイントの各要素別の合算値からグラフとしてのエゴグラムを得ていた。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記した従来技術にあつては、得られたエゴグラムの明確な分析基準がなく、単に批判的な親的度合いCPの合算値cpと保護的な親的度合いNPの合算値npの関係から、「几帳面」な傾向が強いとか、反対に「優しい」傾向が強いと判断したり、また自然な子供の度合いFCの合算値fcと順応な子供の度合いACの合算値acの関係から、「のびのび」した傾向が強いとか、反対に「すなお」な傾向が強いと判断したり、さらに成人的度合いAの合算値aの他の要素の合算値との関係から、「冷静」な傾向が強いとか、反対に「感情的」な傾向が強いと判断するだけであつて、その傾向の強さの度合いがどの程度であるかを知ることができず、得られる判断が曖昧であると言う問題があつた。

【0007】また、自然な子供の度合いFCと順応な子供の度合いACとに分けられた子供の度合いは、人間が本来的に持って生まれた心的エネルギー部分であつて、親の影響を強く受けて形成される感情的な人柄の要素であるが、元来、この子供の度合いは、上記二つの要素と反抗の子供的度合いの三つの要素に分けられていたのであるが、従来技術にあつては、この反抗の子供的度合いを、上記二つの要素のいずれかに包含されるものとしていた。

【0008】しかしながら、自然な子供の度合いFCと順応な子供の度合いACは、その形成プロセスがはっきりしているのに対して、反抗の子供的度合いは、親からの影響が強いにも関わらず、その形成プロセスが定かでなく、このためこの反抗の子供的度合いを、自然な子供の度合いFCおよび順応な子供の度合いACに包含させることは、エゴグラムによる人柄の判断の正確さ、および信頼性を損なうと云う問題があつた。

【0009】そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、エゴグラムによる人柄の判断を正確にかつ明瞭に達成することを技術的課題とし、もって正確で高い信頼性のあるエゴグラムによる人柄の判断をえることを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】上記技術的課題を解決する本発明の手段は、批判的な親的度合いCP、保護的な親的度合いNP、自然な子供の度合いFC、順応な子供の度合いAC、反抗の子供的度合いRCそして成人的度合いAの六つの人柄の各要素に対する多数の設問を設けること、この設問に対する被験者の認識度合いに応じた自己評価ポイントを得、この自己評価ポイントの各要素別の合算値からエゴグラムを得ること、このエゴグラムに対して、○順応な子供の度合いACを除いた各要素の合算値の合計の平均値 $EIEI = (cp + np + fc + rc + a) / 5$ による心的エネルギーレベル判断処理1、○批判的な親的度合いCPの合算値cpと保護的な親的度合

いNPの合算値npとの和の平均値と、自然な子供の度合いFCの合算値fcと順応な子供の度合いACの合算値acとの和の平均値との差 $k_1k_1 = (cp + np) / 2 - (fc + ac) / 2$ による親的度合いと子供の度合いとの間の心的エネルギーの偏り傾向の判断作業2₁と、合算値cpとnpとの差 $k_2k_2 = cp - np$ および合算値fcとacとの差 $k_3k_3 = fc - ac$ による親的度合い内および子供の度合い内における心的エネルギーの偏り傾向の判断作業2₂と、による基本パターン判断処理2、○最も合算値の大きい要素の、2番目の要素の合算値との差tによる突出程度判断処理3、○合算値rcと、差 k_1 、差 k_3 、そして合算値acとの差のそれぞれの比較による反抗の子供的度合いRCの影響判断処理4、○合算値aの他の合算値に対する大小関係の比較による成人的度合いAの影響判断処理5、の各処理を行うこと、にある。

【0011】心的エネルギーレベルEI、差 k_1 、差 k_2 、差 k_3 、合算値acとrcとの差、差tのそれぞれを、予め統計的に求めた範囲の3～7に分割されたどの段階に位置しているかにより、その程度を判断するのが有効であり、この場合、予め統計的に求めた範囲を5段階に分割するのが便利である。

【0012】

【作用】自然な子供の度合いFCと、順応な子供の度合いACと、反抗の子供的度合いRCは、0～3才頃に主として形成され、親から感覚的、感情的な働きかけ、刺激を受け、それに対して感覚的な感情的な感じ方や反応の仕方を身につけ、そうしたものが積み重なって形成された子供の度合いに含まれる。

【0013】自然な子供の度合いFCは、私達が持って生まれた感覚、感情、欲求、素質、気質、要素などが損なわれずに残り、さらに何度もそれを現すことによって強化され、定着し、その人の人柄となったものであり、順応な子供の度合いACは、親の言うことや要求することに従い、自分の欲求、感覚、感情を抑え、親に従順に順応するプロセスの中で作られた反応行動のパターンが人柄となったものであり、反抗の子供的度合いRCは、親の言うことや要求することに従えず、自分の欲求や感情を相手にぶつけて自分の欲求を通そうとするプロセスを通じて作られた反応行動のパターンが人柄となったものである。

【0014】批判的な親的度合いCPと保護的な親的度合いNPは、3～6才頃が形成期のピークとなっている、親の言っていること、やっていることを見たり聞いたりしているうちに、それをうのみにして取り込み、自分の人柄とした親的度合いに含まれる。

【0015】批判的な親的度合いCPは、親が持っていた考え方、価値観、理想、信念などを取り込んで自分の人柄としたものであり、保護的な親的度合いNPは、親のとっていた人に対する愛情の持ち方、示し方を取り込んで自分の人柄にしたものである。

【0016】成人的度合いAは、6～9才頃に形成期のピークのあるもので、思考力や判断力を強め、考えながら状況を把握、判断し、対応する行動を繰り返しているうちに、それが自分の人柄となったものである。

【0017】これらの六つの要素に対する設問から得られる合算値は、各要素の心的エネルギーの大きさを示しているので、この各要素の合算値の合計の平均をとることにより、被験者が持っている全体の心的エネルギーレベルを知ることができるが、順応な子供の度合いACはエネルギーを抑制する要素であるため、全体の心的エネルギーレベルの評価には加えることができず、このため心的エネルギーレベルEIは、順応な子供の度合いACの合算値acを除いた他の要素の合算値の合計の平均値となる。

【0018】この得られた心的エネルギーレベルEIによる心的エネルギーレベル判断処理1によって、被験者の人柄の各要素がどのくらいの強さで表に現れるかを判断する。すなわち、心的エネルギーレベルEIの高い被験者の場合は、人柄の各要素が強く現れることになるので、目立つ、または存在感の強い傾向の人柄であると判断し、反対に心的エネルギーレベルEIの低い被験者は、人柄の各要素が弱く現れることになるので、目立たず、または存在感の弱い傾向の人柄であると判断する。

【0019】基本的パターン判断処理2は、人柄の最も基本的な要素である批判的な親的度合いCPと、保護的な親的度合いNPと、自然な子供の度合いFCと、そして順応な子供の度合いACの、心的エネルギーの相互関係から、被験者の基本的パターンKを得、この基本的パターンKから、被験者の最も基本的な人柄を判断するもので、差 k_1 から、被験者の心的エネルギーの、親的度合いと子供の度合いとの間での偏り程度を知ると共に、差 k_2 と差 k_3 とから、親的度合い内および子供の度合い内における心的エネルギーの偏り程度を知り、これらの偏りの傾向および

その程度から、被験者の基本的な人柄を判断する。

【0020】図1ないし図5は、基本的パターンKの代表的な例を示すもので、図1は、優しさ、明るさ、無邪気さを持っている反面、感情や気分によって行動し勝ちな人柄であると判断でき、図2は、親から受け継いだ価値観、理想、信念、そして自己規制の枠組みが強く、真面目である反面、他人に厳しく、批判的で、自分に圧力をかけ過ぎ勝ちな人柄であると判断でき、図3は、自分の気持ちを抑えて他人に優しく振る舞い、穏やかである反面、内的には自分の欲求や感情の発散を抑えるのでストレスがたまり易く、優柔不断となり勝ちな人柄であると判断でき、図4は、自由闊達、強い責任感や信念そして達成欲求を持つ反面、わがままで、力の出し過ぎによるトラブルメーカーとなり勝ちな人柄であると判断でき、そして図5は、どのような状況にも人にもうまく対応できる安定感を持っている反面、インパクトが弱く、個性が乏しくなり勝ちな人柄であると判断できる。

【0021】突出要素の突出程度判断処理3は、六つの要素の内の最も合算値の大きい要素と、この合算値の最も大きい、すなわち心的エネルギーの最も大きい要素の突出程度を差 t から知ることにより、この最も突出した要素の、他の要素に対する影響の程度を判断し、この影響の程度に従って、基本的パターンKによる人柄判断等に修正を加える。

【0022】すなわち、合算値の最も大きい要素は、心的エネルギーが最も大きく、人柄として強く現れ易いのであるが、差 t が大きくて、他の要素からの突出程度が大きいと、この最も突出した要素の他の要素に対する影響程度はそれだけ強くなり、他の要素が人柄として現れ難くなるのに比べて、最も突出した要素が人柄としてより強く現れることになり、反対に差 t が小さいと、この最も突出した要素の他の要素に対する影響程度は弱く、それぞれの要素がその合算値に応じた程度に人柄として現れることになる。

【0023】反抗の子供的度合いの影響判断処理4は、心的エネルギーが強く発揮される反抗の子供的度合いRCが、子供적度合いの要素の中で、どのような心的エネルギーの大きさ関係にあるかを把握、これにより子供적度合いの要素の中における反抗の子供的度合いRCの影響の程度を知り、さらに反抗の子供的度合いRCの子供的度合い内における影響程度を考慮しながら、差 k_1 により、子供적度合いと親的度合いとの関係、すなわち基本的パターンKによる人柄判断等に修正を加える。

【0024】例えば、図1において、合算値 rc がイの大きさであると、合算値 rc は合算値 np 、 fc と等しい値で最大値となり、子供적度合いにおける心的エネルギーは、自然な子供적度合いFCと反抗の子供적度合いACとに強く現れることを知ることができ、また差 k_1 が“0”であることから、子供적度合いは親的度合いと同程度の心的エネルギーを有しているのであるから、反抗の子供적度合いACは相当に強く現れると判断され、エネルギーッシュではあるが、感情や気分による行動に反抗、反発、すねる等の行動パターンが多く現れると判断される。

【0025】また、図1において、合算値 rc がロの大きさであると、反抗の子供적度合いRCは、子供적度合いの三つの人柄中、最小値となるので、子供적度合いにおける心的エネルギーは、この反抗の子供적度合いRCに現れることは殆どなく、感情や気分による行動に反抗、ひねくれが殆ど現れることはないが、自立性および競争心が乏しいと判断される。

【0026】成人的度合いの影響判断処理5は、親からの強い影響力で形成される子供적度合いおよび親的度合いの人柄要素を、状況に合わせてコントロールする成人的度合いAの合算値 a が、他の要素の合算値とどのような大小関係にあるかにより、成人的度合いAの他の要素に対するコントロール能力の程度を知り、この成人的度合いAが他の要素をコントロールしている状況を把握して、基本的パターンKによる人柄判断等に修正を加える。

【0027】例えば、図1において、合算値 a がハの大きさであると、この合算値 a は合算値中、最大値となっているので、成人的度合いAの他の要素に対する影響程度が強くなり、状況に合わせて、保護的な親的度合いNPによる過保護、および自然な子供적度合いFCによるわがままさを抑制して、問題性のある行動パターンを少なくするが、反面、打算的となり勝ちであると判断できる。

【0028】なお、図1のハの大きさの場合、合算値 a は最も突出したものとなるので、成人的度合いの影響判断処理5は、突出要素の突出程度判断処理3と実質的に同一となり、それゆえ成人的度合いAの他の要素に対するコントロール能力は、差 t の値に従って判断することになる。

【0029】また、図1において、合算値 a がニの大きさであると、成人的度合いAのコントロール能力を他の要素に対して十分に作用させることができず、特に保護的な親的度合いNPによる干渉のし過ぎとか、自然な子供적度合いFCによる衝動的等による状況に合わない、感情的、感覚

的な問題性のある行動パターンをとりやすいと判断できる。

【0030】

【実施例】以下、本発明の実施例を、図面を参照しながら説明する。図6は、或る被験者のエゴグラムを示すもので、批判的な親的度合いCPの合算値cpが14、保護的な親的度合いNPの合算値npが21、自然な子供の度合いFCの合算値fcが12、順応な子供の度合いACの合算値acが21、成人的度合いAの合算値aが19、そして反抗の子供的度合いRCの合算値rcが14であった。

【0031】この図6のエゴグラムから、心的エネルギーレベルEIは、 $EI = (14 + 21 + 19 + 12 + 14) / 5 = 16$ 、親的度合いと子供の度合いとの間の心的エネルギーの偏りを示す差 k_1 は、 $k_1 = (14 + 21) / 2 - (12 + 21) / 2 = +1$ 、親的度合い内における心的エネルギーの偏りを示す差 k_2 は、 $k_2 = 14 - 21 = -7$ 、子供の度合い内における心的エネルギーの偏りを示す差 k_3 は、 $k_3 = 12 - 21 = -9$ 、そして突出した要素はなく、差tは0であり、これらの値および基本的パターンKをエゴグラム表上に示すと、図7のようになる。

【0032】この得られたエゴグラムに対する心的エネルギーレベル判断処理1は、心的エネルギーレベルEI = 16から、予め統計的に求めた範囲を五つに分割した[20以上、極めて高い]、[17から19まで、高い]、[14から16まで、普通]、[11から13まで、低い]そして[10以下、極めて低い]の段階の内の[普通]の段階にあることから、この被験者の心的エネルギーレベルEIは普通であるが判断される。

【0033】基本的パターン判断処理2は、親的度合いと子供の度合いとの心的エネルギーの偏りの判断作業2₁により、差 $k_1 = +1$ から、予め統計的に求めた範囲を五つに分割した[+6以上、親的度合いが極めて強い]、[+3から+5まで、親的度合いが強い]、[+2から-2まで、バランスしている]、[-3から-5まで、子供の度合いが強い]そして[-6以下、子供の度合いが極めて強い]の段階の内の[バランスしている]の段階に位置していることから、親的度合いと子供の度合いとの間の心的エネルギーの偏りがないと判断する。

【0034】また、親的度合い内および子供の度合い内の心的エネルギーの偏りの判断作業2₂により、求めた差 $k_2 = -7$ から、予め統計的に求めた範囲を五つに分割した[+5以上、批判的度合いが極めて強い]、[+2から+4まで、批判的度合いが強い]、[-1から+1まで、バランスしている]、[-2から-4まで、保護的度合いが強い]そして[-5以下、保護的度合いが極めて強い]の段階の内[保護的度合いが極めて強い]の段階に位置していることから、親的度合いの心的エネルギーは保護的な傾向に強く現れると判断する。

【0035】さらに、得られた差 $k_3 = -9$ から、予め統計的に求めた範囲を五つに分割した[+5以上、自然な度合いが極めて強い]、[+2から+4まで、自然な度合いが強い]、[-1から+1まで、バランスしている]、[-2から-4まで、順応な度合いが強い]そして[-5以下、順応な度合いが極めて強い]の段階の内[順応の度合いが極めて強い]の段階に位置していることから、子供の度合いの心的エネルギーは順応の傾向に強く現れると判断する。

【0036】突出要素の突出程度判断処理3は、求めた差t=0から、格別に突出した要素がなく、六つの人柄の要素が一定の範囲内に位置していることから、この突出要素の突出程度判断処理3により、基本的パターン判断処理2で得られた判断に大幅な修正をする必要がないと判断する。

【0037】反抗の子供的度合いRCの影響判断処理4は、差 $k_1 = +1$ 、差 $k_3 = -9$ 、そして合算値acと合算値rcとの差が+9であることから、子供の度合い中における反抗の子供的度合いRCの影響度合いが低く、無意味に反抗したりひねくれたりすることが少ない反面、根気強さが少ないと判断する。

【0038】成人的度合いAの影響判断処理5は、合算値aが六つの人柄の要素の合算値のほぼ中間に位置していることから、状況に応じてほどほどに対処するが、合算値npおよび合算値acよりも小さいので、保護的な親的度合いNPや順応な子供の度合いACの影響を抑え切れない場合があり、過保護による問題点、および自分の意見を述べないことによる問題点のある行動をとりやすいと判断する。

【0039】これらの五つの判断処理から、図6に示される被験者の人柄の分析結果は、心的エネルギーは普通のレベルであり、他の人と比較すれば、それぞれに説明される傾向はそれほど強いものとは言えないこと、親的度合いと子供の度合いとのバランスが良いので、役割を果たすための態度や行動と、感覚的、感情的に反応する開度や行動が同じように機能すること、突出す

る要素がなく、全体的に強い図3の基本的パターンとなっており、優しく、世話好きで、穏やかで、控え目である反面、主体的に判断し行動することはやや苦手で、他者の下で働く時には良いが、指導者の立場には不向きであること、感情や思い込みによって動いてしまうことがあり、問題解決がうまくできなかったり、不適切な対応行動となることがややみられること、反発心や反抗心によって、対人関係を悪くすることは殆どないが、持続的エネルギーが不足勝ちであること、となります。

【0040】

【発明の効果】本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。得られたエゴグラムを、分析目的および分析手順のハッキリした五つの判断処理により分析するので、明確で信頼性の高い分析結果を得ることができる。

【0041】エゴグラムの判断のための人柄の要素に、反抗の子供的度合いを加えたので、エゴグラムの分析の精度をきめ細かく高いものとすることができ、もってより正確なエゴグラムの分析を達成することができる。

【0042】人柄の各要素の合算値の違いを“差”として定量的に把え、この“差”を予め統計的に求めた範囲内のどのランクに位置しているかにより、その程度を判断するので、得られた判断結果の程度判断が明確で正確なものとなり、もって理解し易い分析結果を得ることができる。

【0043】五つの判断処理の処理目的がハッキリしているので、得られた分析結果から、自分の得手不得手を明確に把握することができると共に、欲求の傾向を正確に知ることができ、もって自分の人柄改善の方向とか、生活方針等の決定を、無理なく適正に考慮することができる。

図の説明

【図面の簡単な説明】

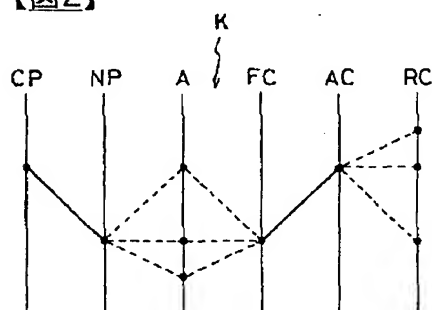
- 【図1】エゴグラムの基本的パターンを一例を示す線図。
- 【図2】エゴグラム of 基本的パターンの他の例を示す線図。
- 【図3】エゴグラム of 基本的パターンのさらに他の例を示す線図。
- 【図4】エゴグラム of 基本的パターンのさらに他の例を示す線図。
- 【図5】エゴグラム of 基本的パターンのさらに他の例を示す線図。
- 【図6】本発明方法により得られたエゴグラムの一例を示す線図。
- 【図7】図6に示したエゴグラムの分析手順の一部を示す線図。

【符号の説明】

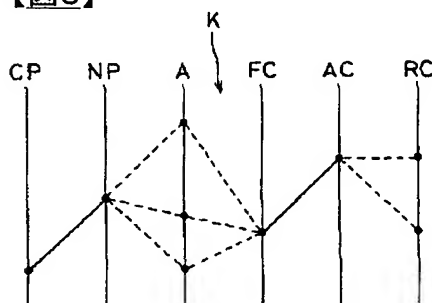
- 1 ; 心的エネルギーレベル判断処理
- 2 ; 基本的パターン判断処理
- 2₁ ; 親的度合いと子供の度合いとのエネルギーの偏りの判断処理
- 2₂ ; 親的度合い内および子供の度合い内のエネルギーの偏りの判断処理
- 3 ; 突出要素の突出程度判断処理
- 4 ; 反抗の子供的度合いの影響判断処理
- 5 ; 成人的度合いの影響判断処理
- FC ; 自然な子供の度合い
- AC ; 順応な子供の度合い
- RC ; 反抗の子供的度合い
- CP ; 批判的な親的度合い
- NP ; 保護的な親的度合い
- A ; 成人的度合い
- fc ; 自然な子供の度合いの合算値
- ac ; 順応な子供の度合いの合算値
- rc ; 反抗の子供的度合いの合算値
- cp ; 批判的な親的度合いの合算値
- np ; 保護的な親的度合いの合算値
- a ; 成人的度合いの合算値
- EI ; 心的エネルギーレベル
- K ; 基本的パターン
- k₁ ; 親的度合いと子供の度合いの差
- k₂ ; 親的度合い内の差
- k₃ ; 子供の度合い内の差
- t ; 突出程度を示す差

図面

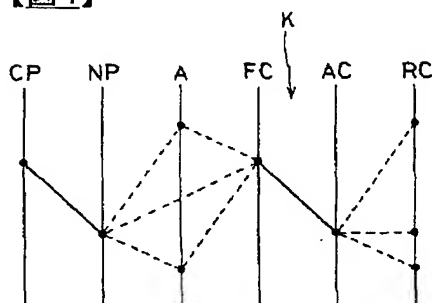
【図2】



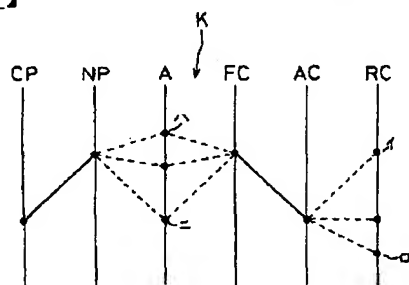
【図3】



【図4】



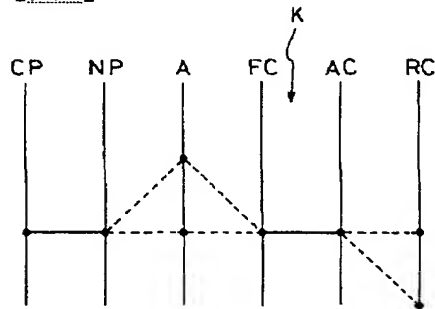
【図1】



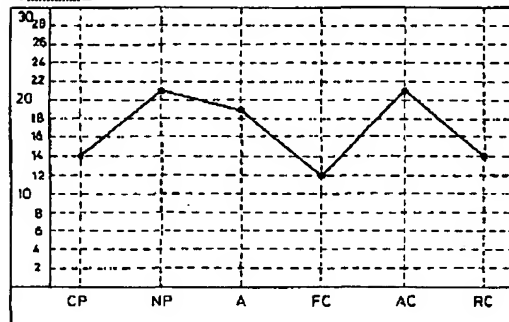
- 1 : 心的エネルギーレベル判断処理 2 : 基本的パターン判断処理
 2₁ : 親の度合いと子供の度合いとのエネルギーの偏りの判断処理
 2₂ : 親の度合い内および子供の度合い内のエネルギーの偏りの判断処理
 3 : 突出要素の突出程度判断処理 4 : 反抗の子供の度合いの影響判断処理
 5 : 成人の度合いの影響判断処理 FC : 自然な子供の度合い
 AC : 順応な子供の度合い RC : 反抗の子供の度合い CP : 批判的な親の度合い
 NP : 保護的な親の度合い A : 成人の度合い
 fc : 自然な子供の度合いの合算値 ac : 順応な子供の度合いの合算値
 rc : 反抗の子供の度合いの合算値 cp : 批判的な親の度合いの合算値

np : 保護的な親の度合いの合算値 a : 成人の度合いの合算値
 $E1$: 心的エネルギーレベル K : 基本的パターン
 k_1 : 親の度合いと子供の度合いの差 k_2 : 親の度合い内の差
 k_3 : 子供の度合い内の差 t : 突出程度を示す値

【図5】



【図6】



【図7】

